

Good morning, everyone. And a Happy New Year to you all!

Do you remember that I used the word “contribution” at the closing ceremony of the second semester? I asked you to study hard, and devote yourselves to athletic or cultural activities in order to contribute to society by expanding your potentials.

Today I would like to give some further remarks about “contribution.”

By the word “contribution”, I meant that we should use our abilities not only for our own sake, but also for others’ sake. It is not the amount of ability but how to use your ability that counts. Even if you feel yourself powerless, it does not matter. It might be contradictory but, after all, your existence itself can contribute to someone else if you live as best as you can..

The film titled “あん” starring KIKI Kirin is about a person who has been isolated from the society because of Hansen’s disease. She says;

「私達はこの世を見るために、聞くために、生まれてきた。

この世は、ただそれだけを望んでいた。

・・・だとすれば、何かになれなくても、私達には生きる意味があるのよ。」

Also, the mass murder in Sagami-hara cast us the same question. Is there anyone who has no reason to be here? The answer is “NO.”

Like one of the three core concepts of Tokyo 2020, “achieving personal best.” I hope every one of you can realize YOUR best performance and achieve YOUR personal best.

(概要)

二学期末の終業式で、「貢献 (contribution)」という言葉を使いました。覚えていますか？自分の持っている力を伸ばして、社会に貢献するために勉強やスポーツ、文化活動に打ち込んでもらいたい、と言いました。

今日は「貢献」ということについて、もう少し補足しておきます。

「貢献」という言葉で言いたかったのは、自分の能力を自分のために使うのではなく、他人のためにも使うべきである、ということでした。大切なのは、能力の多寡ではなく、使い途ということです。自分が無力だと感じるかもしれませんが、そんなことは関係ありません。矛盾しているように思われるかもしれませんが、一生懸命生きていれば、結局のところ、あなた方がここに居ること自体で、誰かのためになりうるということです。

樹木希林さんが出演した映画「あん」は、ハンセン病のために社会から隔離されてきた人のお話です。そのなかで、彼女はこう言います。

「私達はこの世を見るために、聞くために、生まれてきた。

この世は、ただそれだけを望んでいた。

・・・だとすれば、何かになれなくても、私達には生きる意味があるのよ。」

相模原殺傷事件もまた、同種の問いを投げかけています。この世に居る意味のない人はいるのか。答えは「NO」です。

東京 2020 の3つの基本コンセプトのひとつ「全員が自己ベスト」のように、全員が自分のベストを尽くし、自己ベストを達成できますように。